



“Dr.ジャン・シーのヒューマンファクター研究室”

No.33 (ヒューマンパフォーマンスツール ①) 参考

【トラブル事例】

作業員Aは、配管の敷設準備のため、TBMにて「一時的に開口部を設ける」ことを同僚たちに周知したうえで、作業を開始した。開口部を設けたところで、午前中の作業を終え昼休憩となった。

その際、カラーコーンで作業中であることを知らせるための作業区画を設置し、注意喚起表示はしたものの、一時的であることから開口部への落下防止の養生まではしていなかった。

昼休憩を終え、午後の作業に取り掛かった直後、作業員Bが工事現場の写真撮影中、後ずさりして開口部から落下してしまった。(撮影することに集中していたため、TBMでの注意事項や開口部の存在を失念してしまった。)

【ヒューマンパフォーマンスツールの活用】

このようなトラブルの予防に関しては、以下のヒューマンパフォーマンスツールが有効です。

ツール名: **“2分間ドリル(現場レビュー)”**

➤ 何のため?

- 作業現場の状況は、日々変化している。
- あえて時間を設けて短時間で(“2分間” はあくまでも目安)作業エリアを確認し、状況の認識、リスクへの感度を高める。

➤ いつ使う?

- 実際の作業実施場所へ到着した後
- リスク重要度の高い設備を操作する前
- 作業単位ごとに現場確認をするとき
- 長時間の休憩または中断後 など

➤ どう使う?

- 作業区域や周辺を数分間歩いて見回って現場を確認する。
 - ✓ どんな危険源が現場にありそうか?
 - ✓ どうやったらケガや事故を防止できそうか?
 - ✓ なにか悪さをしそうなものはないか? など
- 同僚や監督者と、予期せぬ危険源または危険な状態、および実施すべき予防策について話し合う。
- 作業開始前に危険源を排除し、適切な措置や万一の対応を行う。

作業開始前や中断後の都度、現場状況を正確に認識するため、「2分間ドリル」で作業エリアを見回り、危険源がないかよく確認し、必要な対策を講じましょう!

※ ヒューマンファクター研究室では、今回から新シリーズとして、代表的なヒューマンパフォーマンスツールを紹介していきます。ヒューマンパフォーマンスツールは、起こりうるエラーを予測し、感知することで、エラーや事故を防止しやすくするためのものです。